

プロジェクト課題活動実績

課題名：宇部・美祢地域の特色を活かした園芸産地の継承

美祢農林水産事務所農業部 チーム員：吉本央、秋永美津子、宮西郁美、塩田幸恵、川野祐輔、原川和彦、西山隆明、藏本泰文

<活動事例の要旨>

園芸産地を維持・発展させていくためには、遊休施設等を有効に活用し、新規就農者の負担を軽減させながら、新たな担い手を確保していくことが重要である。

対象産地の熟度に応じて、継承資産の確認・就農モデルの作成・受入体制整備・新規就農者の募集から定着に向けた活動を展開した。

1 普及活動の課題・目標

宇部・美祢地域では、地域農業を代表する園芸産地が複数展開されているが、生産者の高齢化による離農や、担い手の減少による既存施設・園地の遊休化が発生しており、園芸産地を維持していくことが困難な状況になってきている。園芸産地を今後も維持・発展させていくためには、新規就農者の確保・育成が必要であることから、前プロジェクトでは産地と関係機関が一体となり、新規就農者の募集から定着までの受入体制整備に向けて取り組み、一定の成果が出ている。しかし、近年の急激な資材価格の高騰に対応するため、遊休施設等の有効活用の必要性が高まっている。

そこで、関係機関で連携のうえ各産地・品目において経営モデルを明確化するとともに、継承可能な栽培施設・園地等の資産を整理し、その情報共有と資産を有効活用できる体制を整える。また、産地の熟度に応じた新規就農者受入体制の整備と効果的な募集活動の実施、新規就農者の産地への定着に向けた実践活動の強化に取り組む。

目標項目	基準年 R5年	実績 R6年	目標 R8年
現状に即した就農モデルの作成	—	1	2
対象品目における新規就農者数（予定含む）	—	0（2）	4

2 普及活動の内容

課題	活動対象
1 関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり	宇部ハウス園芸組合 小野茶業組合 美祢アスパラ部会
2 新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化	小野田アスパラ部会 秋芳梨組合 美祢ハウレンソウ部会

（１）関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり

ア 宇部ハウス園芸組合

- ・新規就農者確保のに向けた取組内容や進め方、必要性等について関係機関及び生産者と協議した。

- ・継承可能な施設情報を収集するため、調査の目的・内容・方法等について組合役員と協議し、生産者に対して聞き取りを行った。
- ・昨年作成した、生育調査結果に基づいた栽培基準案について、生産者が行っている栽培管理を聞き取りながら、温度管理等を修正し内容を精査した。
- ・昨年作成した経営指標案について、実際に就農を検討する際に、より具体的なイメージが持てるようにするため、収量別・労働力別に修正した。



イ 小野茶業組合

- ・現在の経営実態を踏まえた経営試算を作成した。
- ・需要と取引価格の低下や生産コストの増加により経営状況が悪化し、生産者7名のうち3名が6年途中に生産を辞めることとなり、急遽、今後の産地維持に向けた経営改善方策について関係機関で協議（4回）した。
- ・生産者の防除及び施肥実績を整理し、生産コストの削減を考慮しながら、栽培暦を見直した。
- ・栽培中止園の維持管理体制構築のため、労働力確保・作業受託体制の構築・共同利用体制の整備等について検討するとともに、実証ほを設置し、管理作業時間等を調査した。



栽培中止ほ場の復元実証（中切作業）実証

ウ 美祢アスパラ部会

- ・アスパラガスを新規就農希望者への提案品目の一つとして検討することについて、関係機関で協議した。
- ・生産者の意向及び経営実態を把握するため、営農意向・施設の利用状況等について聞き取り調査を実施、現状を整理して関係機関で共有した。
- ・経営指標及び栽培マニュアル作成のため、生産データを収集するとともに、肥料試験や高温対策に関する試験ほを設置した。



（２）新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化

ア 小野田アスパラ部会

- ・産地の状況を随時把握するため、生産者から施設の利用状況及び栽培意向を聞き取り、関係機関で共有した。
- ・活用可能な施設等について、部会以外の情報も収集・共有できる仕組みを検討するため、地域の関係機関の会議で提案し、農業委員会農地利用最適化会議等において地域の活用可能な遊休施設の情報提供を呼び掛けるとともに、県リノベ事業の紹介を行った。

- ・就農予定者のスムーズな営農開始に向け、現地研修受入体制の協議や就農計画作成支援等を実施した。また、今年度から栽培を開始した新規就農者が産地に定着するため、やまぐち農林振興公社の支援制度を活用して部会を「農業里親」に位置付け、部会全体で新規就農者を育成する取組を支援した。



イ 秋芳梨組合

- ・従来から実施している営農意向調査アンケートの内容について関係機関で協議し、新たに担い手確保に関する項目を追加して調査した。
- ・産地情報の発信方法について若手生産者が中心となり協議し、SNS を活用した情報発信に取り組んだ。
- ・新規栽培者募集活動の強化について若手生産者を中心に検討し、組合役員と一緒に新規就業ガイダンスに出展した。

ウ 美祢ホウレンソウ部会

- ・関係機関と連携し、部会員から施設の利用状況や営農意向、栽培状況等の聞き取り調査を実施した。また、元部会員の施設状況を確認した。
- ・既存の新規就農者が産地に定着するため、技術指導及び部会と連携した現地巡回及び意見交換会等を実施した。
- ・栽培マニュアルの内容について関係機関等で協議し、内容を変更した。



3 普及活動の成果

(1) 関係機関・部会が一体となった新規就農者受入体制づくり

ア 宇部ハウス園芸組合

生産者に聞き取り調査を実施した結果、空く見込みであった施設も生産者の事情が変わって有効活用されているため、現時点では空き施設はなく、また今後数年間は空き施設が出てくる可能性は低いことが確認でき、当面は現在の産地規模が維持できることが明確になった。

実際の栽培管理を踏まえた栽培基準及び、生産者の意向を反映した収量別・労働力別の経営指標を「現状に即した就農モデル」とすることで関係機関での共通認識が図れた。

イ 小野茶業組合

作成した経営試算では、大幅な赤字経営となっており、この結果は、下記の関係機関の協議においても共有化され危機感が醸成された。

関係機関の協議では、「永続的な産地の維持に向けて」が作成され、生産コスト及び加工場利用料の削減、生産物の全量 JA 買取及び販売強化、園地継承に向けた

取組、新規就農者の確保等の項目について、役割分担のうえ取り組むことが合意された。また、4名の生産者は、今後、経営改善が図られる前提で来年度も栽培を継続する意向を示した。

栽培中止園の維持管理については、生産を辞めた生産者に作業委託することし、

遊休機械を活用した共同機械利用体制を整備していくことで合意が図れた。



作成された「永続的な産地の維持に向けて」

ウ 美祢アスパラ部会

県・JAが連携し、アスパラ部会に対して産地の維持・発展に向けた取組を行う体制が構築できた。

(2) 新規就農者の募集から定着までの実践活動の強化

ア 小野田アスパラ部会

現在研修中の2名はR7年度の就農に向け、着実に準備を進めることが出来ている。また、既存の新規就農者は就農5年後の単収目標を1年目で達成し、部会内で最多の出荷量となり、部会員からの評価や期待も上がっている。

現時点では空き施設はなく、また新たな就農希望者は出てきていないが、就農希望者から相談があった場合は、その実情に応じた研修受入や就農に向けた支援を部会及び関係機関で連携して実践しており、その積み重ねにより徐々に受入体制が強化されている。

イ 秋芳梨組合

SNSを活用し、販売情報や新規栽培者募集情報を発信する仕組みを構築することが出来た。また、梨組合として新規就業ガイダンスに初めて出展し、産地のPRをすることが出来た。

園地の中間管理に向けた検討開始等の項目を盛り込んだアンケート調査を実施することが出来た。



ウ 美祢ホウレンソウ部会

高齢化等により栽培を休止している生産者が増加し、施設面積に対して栽培面積が減少している状況が把握できた。老朽化のため移設は不可能だが、研修や賃貸可能な施設を整理することが出来た。

現時点では、新規就農者募集活動を行うことは困難だが、既存の新規就農者を定着させ成功事例をつくることが重要との共通認識が図れた。

4 今後の普及活動に向けて

園芸産地の継承は、活動対象の熟度や関係機関の支援体制等により、対象への働きかけが異なるが、目標の共通認識を図ることが重要となってくる。すでに新規就農者への施設や園地の継承を行ってきた小野田アスパラ部会、秋芳梨組合、美祢ホウレンソウ部会の取組を参考に、産地の実情を考慮しながら普及活動を展開する必要がある。

宇部ハウス園芸組合は、空き施設の状況や生産者の年齢構成等から、当面は産地が積極的に募集活動を実施する必要性が低いため、生産者の意向の変化に注意しながら、情報収集を継続していく。

小野茶業組合は、まずは既存生産者の経営継続のため、経営改善に向けた具体的な取組の実践とその効果の検証が必要である。

美祢アスパラガス部会は、関係機関との連携強化を図りながら、栽培マニュアルの改訂や就農モデル指標の作成を行い、受入体制整備に向けた検討をすすめていく。

小野田アスパラ部会は、農業委員会等関係機関と連携し部会外も含めた遊休施設等の情報収集と共有に向けた活動を支援するとともに、新規就農者の定着に向けた部会活動を支援していく。

秋芳梨組合は、継承候補園の維持管理体制づくりに向けた検討をすすめるとともに、募集活動の実践・強化を支援していく。

美祢ホウレンソウ部会は、新規就農者の定着に向けた部会活動を支援し、新たな担い手確保に向けた意識の醸成を図っていくことが重要である。